

環境マネジメント

■ 環境経営推進体制

シチズングループは、効率的かつ的確に環境経営を推進するため、グループ横断の環境管理体制を構築しています。年2回、国内18社の環境担当責任者が集まって「グループ環境管理委員会」を開催し、各社の活動状況を把握するとともに、年度の環境方針、共通課題を検討・決定しています。

国内27の生産会社は、ISO14001の認証を取得しており、各社で業態の特徴を出した環境管理活動を推進しています。

海外の生産会社は、環境配慮型製品を製造する上で重要となるグリーン調達や、化学物質管理に重点を置いた活動を展開しながら、順次ISO14001の認証取得を進めています。また、非生産業務に携わる会社は、各社の特徴にあわせた環境負荷低減活動を行っています。

■ 環境監査と環境教育

東京事業所および所沢事業所では、年1回のISO審査機関による外部監査と、原則年2回の内部監査を実施しています。

環境教育は、内部監査員として必要なスキルを身につけるための「内部環境監査員養成教育」や、各部門の環境実務担当者を対象にした「環境担当者教育」、「環境法令遵守評価教育」を年1回実施しています。

環境教育の成果は、受講者へのアンケートや、実際の内部監査において確認し、必要に応じてフィードバックを行っています。

■ 環境リスクマネジメント

シチズングループでは、環境法規制の遵守、製品含有化学物質の管理、廃棄物・リサイクルガバナンスの構築、土壌・地下水汚染対策などを、環境リスクマネジメントの対象としており、グループ環境管理委員会での情報交換を通じて、有効な施策をグループ各社に適用しています。

2006年度に国内外の生産拠点で有害物質の使用履歴調査を実施し、対応を5段階で評価しました。現在、汚染リスクが高いと思われる拠点については、順次土壌や地下水の自主調査を行っています。自主調査の結果、汚染が判明した拠点については、行政に報告し、指導を仰ぎながら対策を実施しています。

事例紹介

シチズン東北 相馬事業所の土壌汚染対策

シチズン東北相馬事業所では、過去に使用していた金属用洗剤(揮発性有機化合物VOCs)による土壌・地下水汚染が自主調査で確認され、自主的対策として地下水流域への汚染された地下水の拡散防止策工事を2009年12月に施工しました。鋼矢板を地下6.5mの泥岩部分まで打設し、遮水壁を3カ所(水平距離45m)設置し、遮水壁間にはバイオレメディエーション※により自然分解を促進させるための栄養剤を注入するEDC工法を同時に施工し、地下水の流れを完全には止めず、かつ汚染土の掘削除去を行わない現位置浄化を施しました。施工後のモニタリングでは確実にVOCsの分解が確認できており、今後も浄化効果確認の定期モニタリングを行い、行政への定期報告を継続します。



※バイオレメディエーションとは、微生物を用いて汚染物質を分解する土壌浄化技術

土壌浄化工事

事業活動と環境負荷

グループ全体のエネルギー・化学物質などの投入量、CO₂や廃棄物などの排出量を的確に把握し、計画的な環境負荷低減活動に活かしています。

INPUT		
総エネルギー使用量(GJ)	国内	2,098,796
	海外	831,845
水使用量(千m ³)	国内	1,589
	海外	1,504
水の循環的利用量(千m ³)	国内	521
	海外	11
化学物質使用量(t)	国内	520
	海外	2,048
容器包装材使用量(t)	国内	654
	海外	804

シチズン
グループの
事業活動

OUTPUT					
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	国内	83,779	BOD排出量(t)	国内	34
	海外	31,737		海外	16
NOx排出量(t)	国内	6	COD排出量(t)	国内	7
	海外	3		海外	64
SOx排出量(t)	国内	4	排出物量(t)	国内	5,370
	海外	4		海外	2,276
排水量(千m ³)	国内	1,291	埋立量(t)	国内	34
	海外	1,020		海外	1,634

[INPUT][OUTPUT]データには、「物流・販売」「使用」「資材調達」段階の環境負荷は含まれていません
対象期間:2009年4月1日~2010年3月31日 集計範囲:国内18社、海外9社



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。

シチズンホールディングス「CSR」環境とシチズン「環境マネジメント/事業活動と環境負荷